

〈明治天皇〉に多面的にアプローチする

日本近代史研究の必見資

臨時帝室編修局史料

# 「明治天皇紀」談話記録集成

オンデマンド版

■監修・編集 堀口 修

Osamu Horiguchi

全9巻

宮内庁書陵部所蔵

ゆまに  
書房 YUMANI  
SHOBU



本書を推薦します！

一般の読者にも奨めたい

御厨 貴

放送大学教授／東京大学・東京都立大学名誉教授

Takasi Mikuriya

『明治天皇紀』作成の際、基礎資料となった宮中や軍部の関係者の『談話速記』が公刊される。あの『明治天皇紀』の淡々とした中にも時々ハッとさせられる文体の背後にあるものは何か。いつも気になっていた。

談話速記と聞いてなるほど得心がいった。我々が現在取組んでいるオーラルヒストリーと同じだ。明治天皇を皮膚感覚で理解するための手段として、周辺の人々の話は絶対に欠かせない。

いくつか読ませてもらって、速記内容の面白さと言うまでもないが、一人一人の速記の形式の違いもまた印象的であった。まずは田中光顕。「謹話」とあるように、これはもういかにも光顕らしい文語調での一方的な語りだ。でも肥満の話から入って、明治天皇が意外にも生誕地京都が好きで、情ヲ制シテワザト京都ニハ立寄ラヌ次第デアル」ことを披露するなど、なかなかの話し上手である。

次いで柳原愛子はどうかってかわって、今日のオーラルヒストリーと同じく質疑応答形式だが、随分とくだけた口語調で読ませる。表と裏における明治天皇の感情の起伏の現し方の違いが、手にとるようにわかってついつい先に目がいつてしまう。

さて伊東巳代治には三上編修官長自らが応対する。伊東もまた憲法制定時を知る生き残りの証言者として、重々しく秘話を初めて明かすが如くにふるまう。口語調ではあるが、話は巳代治節そのものと言ってよい。

最後に大島健一。やはり軍人らしいいきちんとした話しぶりだ。ただインタヴューは金子総裁を始め、竹越与三郎、渡辺編修官など複数のチームで行われ、彼等とのやりとりも収録されていて役に立つ。

明治天皇をめぐって、これだけ多彩な切り口が示せたのも、オーラルヒストリーならではの収穫である。明治天皇個人を、ひいてはその時代を知るのいうってつきの資料集だ。歴史家のみならず一般読者にも奨めたい。

人物の個性に踏み込んだ、

オーラルヒストリー

広瀬順皓

駿河台大学教授

Yoshiro Hirose

今回刊行される「臨時帝室編集局史料『明治天皇紀』談話記録集成」は、明治天皇紀編纂にあたって臨時帝室編集局が収集した談話記録である。伊東巳代治、金子堅太郎などの政治家、斎藤実、大島健一などの軍人を始め、柳原愛子、下橋敬長等宮内関係者など興味深い人々の談話記録が並んでいる。たとえば伊東巳代治談話筆記は、謹呈憲法の趣旨を鮮明にするため明治天皇の御沙汰がありその趣旨を伊藤博文に伝えたという、明治二四年一月の伊東書簡が内大臣府文書にあり、その前後の事情を三上編修官長が聞くという形で始まる。昭和五年に行われたこの談話は、明治天皇の君主としての一面を物語るもので、昨今の天皇論に引きつけて考えてみても興味深い。また「山縣公は陛下の御前に出ると、どうも固くなる癖があります。奏上の詞に角が立ちますので話がしつくり行かないのです」など、人物の個性に踏み込んだ、オーラルヒストリーならではの叙述もある。日本近代史史料としてまた人物研究資料として、本談話記録集成を推薦する所以である。



■《宮内関係》

**田中光頭** 一八四三(天保十四)年〜一九三九(昭和十四)年 土佐国生まれ。高知藩士、明治政府高官、宮内大臣。一八六四年(元治元)脱藩して勤王運動に挺身し、陸援隊に加盟し明治政府に出仕し諸官職を歴任、岩倉遣欧使節団の理事官として外遊した。以後陸軍会計監督長・陸軍少将・恩給局長・内閣書記官長・元老院技官などを歴任。さらに会計検査院長・警視總監・宮中顧問官・学習院長をへて、宮内大臣、伯爵。

**万里小路通房** 一八四八(嘉永元)年〜一九三二(昭和七)年 公家、侍従。万里小路博房の長男。一八六五年(慶応元)右少弁に任ぜられた。六七年書記御用係、六八年(明治元)には参与となり軍防事務局親兵掛を兼務した。同年閩東監察使三条実美に随行して江戸に下り、権右中弁・錦旗奉行加勢・鎮将府弁事・御旗監を歴任、八月からは奥羽征討総督府参謀として東北に出征した。翌六八年より洋行、七四年帰国以後は工部省・宮内省に奉職し、八二年には侍従に任ぜられた。

**日野西資博** 一八七〇(明治三)年〜一九四二(昭和十七)年 侍従、宮内事務官、内匠寮京都出張所長、宮中顧問官等を歴任。著書に「明治天皇の御日常」(略伝あり)。子爵。

**新山荘輔** 一八五六(安政三)年〜一九三〇(昭和五)年 御料牧場長。明治・大正期の宮内官。長門国生まれ。一八七九年(明治十二)勸農局に入り、なかく下総種畜場に勤務。その後宮内省に入り主に主馬寮に勤務し、また新冠・外山の御料牧場長等を歴任する。九八年第五代目の下総御料牧場長となり、一九二二年(大正十一)には宮中顧問官に任じられる。在職中、しばしば欧米の馬政に関する視察を行う。日本の畜産・産馬事業の発展に尽くした。獣医学博士。

**目賀田万喜** 一八五七(安政四)年〜没年未詳 明治期の陸軍軍人・宮内官。調馬等に従事。宮内省では新冠御料牧場に勤務後、なかく調馬・馭者関係の仕事に従事する。

**工藤一記** 一八五三(嘉永六)年〜一九三五(昭和十)年 明治〜大正期の宮内顧問官。大阪師範学校卒。一時岡山県で学校教育に従事。その後学習院幹事・同教授、文事秘書官、帝室会計審査局主事、山階宮宮務監督、宮中顧問官、賀陽宮宮務監督歴任。

**大原重朝** 一八四八(嘉永元)年〜一九一八(大正七)年 公家、貴族院議員。大原重徳の三男、大原重実の養子。一八六六年(慶応二)左馬頭。同年重徳・中御門経之らの列参に加わって公武合体派公卿を指揮し差控を命ぜられたが、翌六七年赦免。六八年(明治元)参与・弁事に任ぜられる。七四年宮内庁に出仕し、七九年外務省御用係に任ぜられた。伯爵。

**長崎省吾** 一八五〇(嘉永三)年〜一九二七(昭和二)年 明治〜昭和前期の外交官・宮内顧問官。薩摩国生まれ。藩校造士館・昌平學に学んだのち、渡米してミシガン大学卒。在英日本公使館勤務を命ぜられ、外交官としてロンドンに勤務した。帰国後宮内庁に入り、式部官・宮内書記官・宮内大臣秘書官・調度頭・閑院宮附別当・宮内顧問官を歴任した。

**藪(高倉)篤磨** 一八八〇(明治十三)年〜一九六四(昭和三十九)年 公家。貴族院議員。明治神宮大宮司を歴任。一九四七年(昭和二十二年)称号を藪家から高倉家に復した。子爵。

**嵯峨仲(南加)子** 一八六五(慶応元)年〜一九五〇(昭和二十五)年 公卿中山忠光の娘、侯爵嵯峨公勝夫人。天誅組盟主として拳兵し失敗・暗殺された父の死後、長門国に生まれる。一八七五年(明治八)母とともに上京、忠光の父忠能邸に入る。のち山口藩知事毛利元徳の養女として侯爵嵯峨公勝と結婚、実勝らを生んだ。

**西五辻文仲** 一八五九(安政六)年〜一九三五(昭和十)年 公家、貴族院議員。貴族院議員。開成学校に学ぶ。一八七三年(明治六)宮内省に入省、宮中祇候御会講・青山御所勤務を歴任。九〇年より貴族院議員となる。男爵。

**藤木経輝** 一八五六(安政三)年〜没年未詳 侍医寮御用掛。明治〜大正期の宮内官。京都府警察医から宮内省侍医寮御用掛等を歴任。

**慈光寺仲敏** 一八七四(明治七)年〜一九三七(昭和十二)年 華族。明治〜昭和前期の宮内官。子爵慈光寺有仲の子。内覧、侍従、式部官、掌典、御歌所参候等を歴任。

**柳原愛子** 一八五九(安政六)年〜一九四三(昭和十八)年 大正天皇生母、柳原光愛の次女。二位局、典侍。一八七〇年(明治三)皇太后の小上臈として宮内に入る。翌年掌侍、七二

年明治天皇に仕え、翌年権典侍となり、七五年薰内親王、七七年敬仁親王、七九年嘉仁親王(大正天皇)を生んだ。一九〇二年典侍。二年(大正元)皇太后宮典侍となる。

**伊東巳代治** 一八五七(安政四)年〜一九三四(昭和九)年 明治〜昭和前期の官僚・政治家、枢密顧問官。肥前国長崎生まれ。伊藤博文のもとで大日本帝国憲法などの法典を調査・起草にたずさわった。枢密院書記官長をへて、一八九二年(明治二十五)第二次伊藤内閣の内閣書記官長。日清戦争では全権弁理大使として批准書を交換。その後枢密顧問官となり、一九〇三年には帝室制度調査局の副総裁として皇室令を制定。原敬時代の政友会には理解を示す態度をとった。十七年(大正六)臨時外交調査委員会委員となり、政府の方針を批判した。二十七年(昭和二)の金融恐慌に際し、台湾銀行救済緊急勅令案を枢密院で否決させて第一次若槻内閣総辞職の要因を作り、三〇年のロンドン海軍軍縮会議でも批准反対の論陣を張った。

**目賀田種太郎** 一八五三(嘉永六)年〜一九二六(大正十五)年 官僚・政治家、枢密顧問官。明治後期の大蔵官僚。幕臣の子として江戸に生まれる。一八七〇年(明治三)渡米、ハーバード大学卒、文部省・代官・判事などをへて、八三年大蔵省入省。九四年〜一九〇四年主税局長。〇四年から朝鮮政府財政顧問・統監府財政監査長官として朝鮮貨幣整理事業を推進した。貴族院議員・枢密顧問官を歴任。

**金子堅太郎** 一八五三(嘉永六)年〜一九四二(昭和十七)年 明治〜昭和前期の官僚政治家、枢密顧問官。筑前国生まれ。福岡藩士の子。藩校修猷館・ハーバード大学に学び、伊藤博文の知遇を得る。元老院権少書記官を皮切りに首相書記官・枢密院書記官などを歴任し、伊藤の憲法制定作業などを助けた。一八九〇年(明治二十三)貴族院書記官長となり、農商務次官をへて第三次伊藤内閣の農商務相、第四次伊藤内閣の司法相を務めた。この間、九八年の伊藤の新党計画や政友会創立に関与。日露戦争に際してはアメリカに特派され、ハーバード大学で同窓のセオドア・ルーズベルト大統領らに接触してアメリカ世論の親日誘導に当たった。一九〇六年枢密顧問官、昭和前期まで長老として活躍した。伯爵。

■《軍人関係》

**井上良馨** 一八四五(弘化二)年〜一九二九(昭和四)年 明治期の海軍軍人、海軍大将、元帥。鹿児島藩士の家に生まれ、薩英戦争に参加。また鹿児島藩軍艦に乗り組み、戊辰戦争にも従軍。一八七一年(明治四)海軍中尉。江華島事件のときの雲揚艦長。常備艦隊司令長官・横須賀鎮守府司令長官などの要職を歴任し、一九〇一年大将。十一年元帥。

**斎藤 実** 一八五八(安政五)年〜一九三六(昭和十一)年 明治〜昭和前期の海軍軍人・政治家。海軍大臣、総理大臣、内大臣。陸奥国胆沢郡生まれ。一八七九年(明治一二)海軍兵学校卒。初代アメリカ公使館付武官や艦隊・海軍参謀部勤務のあと、九八年に大佐で巖島艦隊のとき海軍次官に抜擢された。日露戦争終了までに七年間(二時期海軍総務長官と改称)にわたる内閣で海相を歴任。一九二二年(大正元)大将に昇進。シムズ事件で一四年辞職。一九二七年(大正八)昭和二)・二九〜三一年の二期にわたり朝鮮総督。五・一五事件のあと三二年五月〜三四年四月奉天一致内閣の首相となる。三五年内大臣に就任したが二・二六事件で反乱軍に殺害された。

**松村龍雄** 一八六八(慶応四)年〜一九三二(昭和七)年 明治〜昭和前期の海軍軍人。海軍中将、侍従武官。肥前国生まれ。海軍大学校卒業後、軍令部・常備艦隊参謀・侍従武官などをへたのち、日露戦争に吾妻・三笠副長として参戦。第二艦隊参謀長・海軍大学校教頭・安芸艦長・教育本部第一部長を歴任した。一九一四年(大正三)第二南遣支隊司令官として旗艦薩摩に座乗、さらに第一戦隊司令官・馬公・旅順両要塞港部司令官などを務めた。一六年海軍中将、二三年予備役編入。

**小笠原長生** 一八六七(慶応三)年〜一九五八(昭和三十三年) 明治〜昭和前期の海軍軍人。海軍中将、東京御学問所幹事。唐津藩世氏小笠原長行の長男として江戸に生まれた。一八八七年(明治二〇)海軍兵学校卒。日清戦争に巡洋艦高千穂分隊長として参戦し、のち軍令部で戦史編纂委員となる。日露戦争でも軍令部参謀で戦史編纂に従事。戦後は東京御学問所幹事・中将。「東郷元帥評伝」など著書多数。

**岡沢 精** 一八四四(天保十五)年〜一九〇八(明治四十二)年 明治期の陸軍軍人。陸軍大将、初代侍従武官長。萩藩士の子として生まれ、大村益次郎の塾に学び、尊攘討幕運動に参加。一八七一年(明治四)陸軍中尉となる。日清戦争で大本営軍事内局長兼侍従武官となり、明治天皇の信任を得、九六年初代侍従武官長に就任。以後没するまで同職にあった。一九〇四年大

将。

**上田兵吉** 一八六九(明治二)年〜一九三二(昭和六)年 旧徳島藩士。陸軍士官学校、陸軍大学校卒。明治二十五年陸軍歩兵少尉、その後歩兵第十二連隊中隊長、近衛歩兵第四連隊大隊長、鴨緑江軍高級副官、侍従武官、歩兵第四十四連隊長、第十七師団参謀長、歩兵第二十四旅団長等を歴任。陸軍少将。大正八年予備役。明治四十一年朝鮮国、四十二年清国出張。男爵。

**大島健一** 一八五八(安政五)年〜一九四七(昭和二十二)年 明治・大正期の陸軍軍人。陸軍中将、枢密顧問官。美濃国生まれ、陸軍中将大島浩の父。陸軍士官学校卒業後、ドイツ・フランスに留学。山県有朋の信任を得、参謀本部第四部長・参謀次長などを歴任。一九一三年(大正二)中将となり、第二次大隈・寺内内閣で陸相。一九九年予備役編入後、貴族院議員・枢密顧問官。

**白井二郎** 一八六七(慶応三)年〜一九三四(昭和九)年 明治〜昭和前期の陸軍軍人。陸軍中将、侍従武官。一八六七年(慶応三)生まれ。陸軍士官学校をへて、九七年(明治一〇)歩兵少尉に任官。以後陸軍大学校教官・侍従武官・軍事参議院幹事・フランス公使館付武官・歩兵連隊長・旅団長・旅順要塞司令官・第八師団長などを歴任。一九一六年(大正五)陸軍中将。二二年予備役に任じ、国華徴兵保険会社の名誉顧問などを務めた。

**壬生基義** 一八七三(明治十)年〜一九三六(昭和十一)年 明治〜昭和前期の陸軍軍人。陸軍少将、侍従武官。一八七三年(明治六)東京に生まれる。八二年より九〇年まで明治天皇に側近として奉仕。陸軍士官学校卒業後、騎兵少尉に任官。一九〇六年陸軍大学を終えたのちには、東宮武官、御学問所御用係・侍従武官などを歴任した。二二年(大正十一)陸軍少将。翌三年予備役編入、鮮満産金会社取締役を務めた。伯爵。

**八田裕二郎** 一八四九(嘉永二)年〜一九三〇(昭和五)年 海軍大佐、衆議院議員。越前国生まれ。一八七〇年(明治三)海軍兵学校に入り、翌七四年よりイギリスに留学。海軍大佐。立憲政友会 衆議院議員。

■《歴史考証》

**下橋敬長** 一八四五(弘化二)年〜一九二四(大正十三)年 明治・大正期の有職実家。京都生まれ、下橋家は上御藏立入家の分家で、摂関家一条家の侍の家柄。一八六七年(慶応三)に家を継いだ。翌年の明治維新で皇学所の監察助となる。還朝後も関西にとどまり、宮内庁の支局などに勤務。古今東西の書物に詳しく、朝廷の旧制度に精通し、一九二二年(大正十)上京して宮内省図書寮など各所で講演。「幕末の宮廷」は、その講演録。

**妻木忠太** 一八七〇(明治三)年〜一九四四(昭和十九)年 日本史研究者、近現代史研究。長門国生まれ。高森小学校教員をへて、一九〇三年(明治三十六)文部省囑託として上京。幕末・維新期の伝記・遺文編纂に携わる。主要な編著書に『維新後大年表』・『松菊木戸公伝』・『吉田松陰の遊歴』など。

■《その他》

**島津久光** 一八一七(文化十四)年〜一八八七(明治二十)年 薩摩鹿児島藩家老、左大臣。幕末期の薩摩国鹿児島藩家老。二代藩主忠義の実父。父は斉興。一八五八年(安政五)兄斉彬の遺命で子忠義が相続し、のち国父として藩政の実権を掌握。大久保利通を信任し、藩内の動搖を収めた。斉彬の遺志を継いで、公武合体周旋のため二二年(文久三)率兵して入京し、寺田屋騒動では藩内過激派を弾圧。勅使大原重徳を擁して出府し、幕政改革を実行させた。帰途生麦事件が発生し、薩英戦争をひきおこした。六三年の八月十八日の政変後は京都で国事周旋に尽力するが、徳川慶喜と意見が合わず帰国。後事を西郷隆盛に託した。七一年(明治四)の廃藩置県を不本意とし鹿児島にとどまる。七四年左大臣。七六年帰国・隠退し、西南戦争では中立を守った。

**桐野利秋** 一八三八(天保九)年〜一八七七(明治十)年 明治初期の陸軍軍人。陸軍少将、西南戦争西郷軍総指揮長。鹿児島藩郷士の子。はじめ中村半次郎と称した。一八六二年(文久二)入京、以後志士と交わる。戊辰戦争で活躍。七一年(明治四)御親兵に加わり陸軍少将。熊本鎮台司令長官、陸軍裁判所所長になるが、明治六年の政変に際し西郷隆盛に従い下野。鹿児島に帰り篠原国幹らと私学校を設立し士族教育を行う。西南戦争では西郷隆盛の四番大隊長、のち総指揮長として戦争指導にあたったが、戦死。



〔監修のことば〕

# 明治天皇の実像に迫る極めて貴重な史料

堀口 修

大正大学教授

Osamu Horiguchi

臨時帝室編修局（大正三年の発足当時は臨時編修局。大正五年より臨時帝室編修局）は、「明治天皇紀」を編修するために宮内省に設けられた一部局である。臨時帝室編修局は、大正四年から編修作業を開始し、紆余曲折を経ながらも昭和八年九月、遂に完成した「明治天皇紀」を昭和天皇に奉呈した。ところで臨時帝室編修局は、新しい時代の天皇紀のあり方を求めて悪戦苦闘しつつも、驚嘆すべき努力を傾けて膨大な関係史（資料）を蒐集する一方、実際、明治天皇に深く関わった人々、即ち侍従・政治家・軍人、はたまた女官等から直接談話を聴取し、或いは独自に蒐集して天皇紀に厚み加えていった。

歴史は公文書・意見書・書翰・日記・手記などの一次史料に基づいて編纂・叙述することが強く求められるのは当然であるが、歴史事象や事件に関わった関係者による談話からも一次史料に劣らない貴重な情報をもたらされることも事実である。それは刊行された『明治天皇紀』を読めばよく理解されるところである。談話から得られる情報には歴史や人物を理解する上で意外なヒントや鍵が埋め込まれていることがある。だからこそ昨今ではオーラルヒストリーと称して歴史の語り部の記録が大きな意義・価値を有するものとして注目されているのである。

今回刊行する『臨時帝室編修局史料「明治天皇紀」談話記録集成』は、臨時帝室編修局が「明治天皇紀」を編修する上で、関係者から種々のテーマを設定して聞き出した、或いは独自に蒐集した談話記録を集成したものである。話者の立場は種々異なるが、それがまた明治天皇に多面的にアプローチすることを可能とじていて興味深い。近代の天皇制研究は、時代の特性から天皇を軸とする統治システムの研究という面からはじまったが、近年では天皇のパーソナリティーも研究の対象となってきた。しかし天皇の実像に迫ることが可能となる史料は多くはない。そうした意味において本集成は、その可能性を有する数少ない貴重な史料といっても過言ではない。本集成が明治天皇や明治史の研究を少しでも前進させることになることを願って止まない。



臨時帝室編修局史料

オンデマンド版 全9巻

# 「明治天皇紀」談話記録集成

■監修・編集 堀口 修

■判型・仕様…A5判・上製・クロス装・函入り・総頁約4000頁

■揃定価…本体144,000円+税(分売不可)

ISBN978-4-8433-0901-8 C3321

平成十五年四月刊

\*オンデマンド版のため、製作に二週間〜三週間お時間がかかります。

## 《本書の特色》

◆本書は大正三年十一月設置された臨時編修局(のち臨時帝室編修局)が「明治天皇紀」を編修するため、明治天皇の側近奉仕者たちから聴取し或いは蒐集した談話記録(宮内庁書陵部所蔵)を影印復刻したものです。

◆本文は三十六巻四十三冊からなり、聴取した人物は田中光顕を始め、宮内関係者から軍人、歴史考証に至るまで多岐にわたり、他史料ではうかがい知ることの出来ない多くの事項を含んでいます。

◆オーラルヒストリーとして先駆的な史料であり、話者がそれぞれの立場から見た天皇の姿や、幕末・維新から明治期の時々の政治・外交・軍事等の動向を語ったもので明治天皇の御事績と日本史を研究する上での必備の史料です。

### 第一巻 ● 宮内関係

田中光顕伯謹話／伯爵万里小路通房談話筆記  
子爵日野西資博談／子爵日野西資博談話速記(第一、二回)  
新山莊輔談話筆記／目賀田万喜談話筆記  
工藤一記談話筆記／大原重朝談話

### 第二巻 ● 宮内関係

長崎省吾談話速記(第一〜三回)

### 第三巻 ● 宮内関係

子爵藪篤鷹談話速記／嵯峨仲子刀自談話筆記  
男爵西五辻文仲談話速記／元侍医寮御用掛藤木経輝談話記  
慈光寺仲敏談話速記／柳原愛子刀自談話筆記  
伊東巳代治談話筆記／男爵目賀田種太郎談話

### 第四巻 ● 宮内関係

金子子爵謹話／金子堅太郎談話／金子総裁談話

### 第五巻 ● 軍人関係

井上良馨元帥談話要領／斎藤実談話速記  
松村龍雄談話速記(第一、二回)／小笠原長生談話速記

### 第六巻 ● 軍人関係

岡沢侍従武官長邸出張記／上田兵吉談話速記  
大島健一談話速記／白井二郎談話速記  
伯爵壬生基義談話速記／八田裕二郎談話筆記

### 第七巻 ● 歴史考証

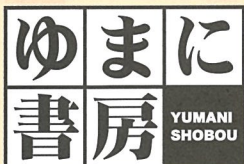
下橋敬長談話筆記(上、中)

### 第八巻 ● 歴史考証

下橋敬長談話筆記(下)／下橋敬長講演筆記

### 第九巻 ● 歴史考証・その他・解説

版籍奉還後(華族令制定まで)華族に関する談話  
大久保利通遭難地調査書諸氏談話筆記  
久光親話記／桐野利秋談話／解説(堀口修)



〒101-0047  
東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL.03(5296)0491  
FAX.03(5296)0493  
http://www.yumani.co.jp/  
e-mail eigyou@yumani.co.jp

### ●特におすすめしたい方

日本近代政治史・外交史・軍事史・日本近現代史研究者ほか関係諸研究機関、作家、各大学図書館、公共図書館など。

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日

## 「明治天皇紀」談話記録集成 全9巻

●揃定価：本体144,000円+税(分売不可) ISBN978-4-8433-0901-8 C3321

セット

ご注文書

取扱店

お名前  
ご住所

TEL ( )